

私たちは、自閉症という障害をもつ人たちが、彼らなりに社会の一員として自主自立をめざし、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いていくことを目的としています。

A J U 檜の里

令和5年6月27日発行 / 第110号

発行人 A J U
東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸之内3-6-43みこころセンター4F
編集 社会福祉法人 檜の里
〒510-1326 三重県三重郡菟野町杉谷 1573
電話 (059) 394 - 1595
編集責任者 山田 勉
購読料 1部 100円
(会員の購読料は会費に含まれています)
URL <http://asakegakuen.com>

あさけ診療所の 『今』

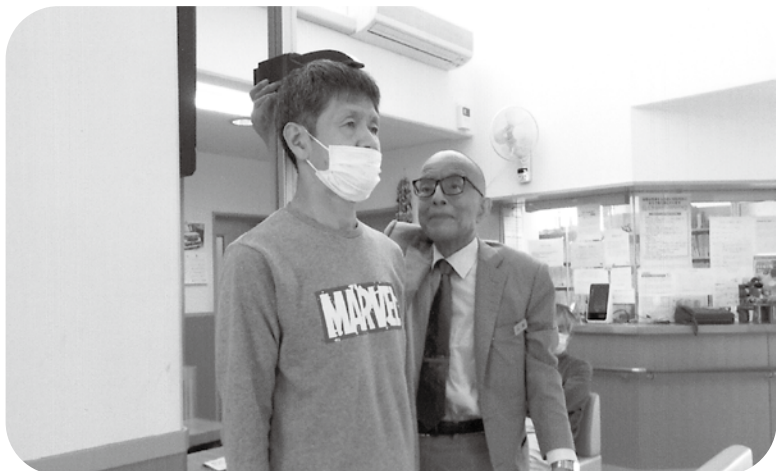
～小西先生に支えられて～



じっくり話を聞きます



最初のあいさつ



いつもの計測

昨年度からあさけホームの管理者となり二年目を迎えました。
これまで利用者と共に過ごすことがほとんどで、ホームの設備や制度的なことについてはあまり直接関わることがありませんでした。これまでしてこなかった事務的なことも含めた業務をすることが増え、新しく覚えなければいけないことができました。また、本来は知っておかなければいけないことについてもわかっていないことに気づくことが多く、日ごろの不勉強さを感じています。
また昨年度後期には、「みえ福祉第三者評価」を受審しました。令和元年に初めて受審し今回が二回目になりました。
「みえ福祉第三者評価」についてご存じの方もみえると思いますが、改めて説明させていただきます。
みえ福祉第三者評価ホームページには、平成十二年からの「社会福祉基礎構造改革」により、行政主導の「措置制度」から、利用者本位の「契約制度」へ福祉制度の大きな変革が行われました。そうした動きの中で、「福祉サービスの向上」と「利用者への福祉サービス情報の提供」の仕組みづくりが急務となっています。
三重県では、福祉サービスの内容などを利用者・事業者以外の第三者（評価機



あさけホームの管理者として

「みえ福祉第三者評価」を受けて

あさけホーム 管理者 清水 孝幸

「評価結果」と事業者による「改善計画」は広く県民の方に公表することとなっています。
今年の一月から具体的な自己評価を始めました。自己評価委員会を設置し、グループホームの支援員、世話人全員に四十五項目において各自で評価してもらいました。

「気付き」につなげ、「改善計画」を策定し、それを実行することにより「福祉サービスの質の向上」を図る、「みえ福祉第三者評価」を実施しています。この制度は各事業者が自主的に受審するものであり、強制的に行われるものではありません。そして評価機関によ

各自が行った自己評価表を自己評価委員会で見て、整理し今回の自己評価をまとめていきました。また、利用者本人や保護者の皆さんにもサービスにおける満足度についてのアンケートを行い、協力していただきました。他にもあさけホームについての概要や理念、基本方針、取り組みについてわかる資料を作成したり、調べたりしました。それらを評価機関に提出しました。
三月下旬に評価機関による訪問調査がありました。訪問調査では、聞き取りによる調査、各グループホームの見学が行われました。聞き取り調査では、事前に提出した自己評価表の一つひとつの項目ごとに、質問を受けそれに答えていきました。日ごろ私たちが行っている取り組みについて説明するのですが、いざ説明するとなると緊張もあり上手く話せないこともありました。
訪問調査を終え、現在は自己評価及び訪問調査で明確になった課題について整理し、改善計画書を作っているところであります。もうまもなく評価結果の報告もあろうと思います。
今回の「みえ福祉第三者評価」を受審して思ったことは、利用者への取り組み及びあさけホーム全体の今後の展開についてどう進めていくかということです。

【次ページへ】

学園だより

あさけ診療所において、平成十二年十月から小西眞行先生をお迎えし、二十数年にわたり児童精神科領域の患者様への外来診療を継続してまいりました。

誠に致しました。これまで利用していただきまして誠にありがとうございます。お礼を申し上げますとともに、小西先生には、長年診療に尽力していただきまして誠にありがとうございます。今後、新しいドクターが確保できればこの限りではありませんが、本年

診療体制の変更

二月より患者様お一人おひとりずつに、左記のような書面を添えて、他の医療機関への移行を支援しているところです。皆様、ご理解のほどよろしくお願い致します。



施設長 近藤裕彦

【前ページより】利用者の平均年齢は五十五歳以上です。還暦をすでに迎えた利用者もいて、最高齢は六十五歳です。今後五年後には六十歳以上の利用者が定員の半分以上を占めるようになります。最高齢の人は七十歳になります。今の生活がそのままできるとは考えにくい状況が迫ってきているのだと感じています。

どう展開していくのか具体的に取り組みを考えていかなければと強く感じています。そのためには、これまで私たちが積み上げてきた支援の仕方、内容について見直し、シフトチェンジしていくことが必要なのだと思います。利用者の高齢化による生活動作、状態は変化していきます。当然ニーズも変わってくるでしょう。それらに柔軟に対応

できるよう準備をし、出遅れることがないように実践に結び付けていかなければと思います。また、一方で職員(支援員・世話人)の育成や働きやすい環境づくりにについても考えていくことが必要なのだと思います。

行っている。そういった気持ちを知ることが、働く場の環境の改善につながるかと考えています。利用者に対する思いもそれぞれだと思います。私だけでは思いつかないことを考えている職員もたくさんいると思います。コミュニケーションをとることで私自身も成長できると思っています。管理者として二年目を迎え、今後の利用者の成長を職員全員と考えていくと共に職員が利用者への支援に集中できる環境を今まで以上に作れるように精進したいと思っています。

令和5年2月1日

ご利用の皆様及び関係機関 各位

社会福祉法人 檜の里
理事長 山田 勉
(公印省略)

令和6年度からの診療体制の変更について

春の訪れを感じる季節となりましたが、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、これまで「あさけ診療所」をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

このたび、「あさけ診療所」を受診している患者の皆様とご家族、関係機関に宛て、大事なご連絡を差し上げる段になったことにつきまして、まずはお許しをいただければと思います。

さて、当社会福祉法人が運営する「あさけ診療所」では、平成12年10月より小西眞行ドクターをお迎えし、広く周辺の地域の方々を対象として、児童精神科及び心療内科の外来診療を提供してまいりました。しかしながら、それから20年以上の月日が経ち、小西先生自身も齢80歳に達しようとする中、後任の常勤医師の補充はかなわず、現在も週5日の激務をこなす毎日となっています。

このような状況をふまえて総合的に考えた結果、皆様にはとても残念な事態となりますが、このまま後任の医師が決まらない場合、令和6年3月29日(金)をもって、小西先生の外来診療は打ち切らざるをえないという、私どもにおきましても辛い決断に至った次第です。

もちろん、今後も後任の医師は募集していきますので、再び外来診療が可能になればこの限りではありませんが、他に児童精神科や心療内科領域の患者様を受け入れてくれる医療機関の数は決して十分でない現状にあって、長い間「あさけ診療所」を利用してきた皆様に対して多大なご迷惑とご苦勞をおかけする結果となってしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいです。深くお詫び申し上げます。

最後に、突然のお知らせとなり、皆様も不安な気持ちが先走っていることと思います。心中お察し申し上げます。つきましては、「あさけ診療所」スタッフ一同、皆様のご意向を丁寧にお聞きし、情報提供だけにとどまらず、他の医療機関への移行の進め方について支援してまいりますので、ご安心いただけますとともに、勝手ながらご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

以上

令和五年度 後援会費納入のお願い

社会福祉法人檜の里後援会
会長 飯田 俊司

私たちは自閉症という障害を持つ人達が、彼らなりに社会の一員として自主自立を目指し、豊かな人生を生き抜くよう共に道を拓いて行くことを目的としています。

この趣旨に賛同して会員となってくださいました皆様方には、今年度も引き続き格別のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同封の郵便振込用紙に必要事項をご記入の上ご送金頂きたく存じます。

年会費

正会員 一口二万円以上

賛助会員 一口二千元

(何口でも結構です)

ご連絡先は「あさけ学園」

TEL 059-3394-1595です。

なお、会員の皆様には、法人機関紙「檜の里」(年二回発行)を毎月お送りします。

世界自閉症啓発デー ONLINE2023

みんなたいせつ ～こせい とくせい たようせい～



国連総会(二〇〇七年十二月十八日開催)において、カタール国王王妃の提案により、毎年四月二日を「世界自閉症啓発デー」とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解していただく取り組みが行われています。

日本でも毎年四月に東京で「世界自閉症啓発デーシンポジウム」が開催されてきましたが、二〇二〇年より新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、大勢の人が集まるシンポジウムは避け、いわゆるリモートで開催されてきました。主催団体がインターネットで動画を配信し、各自がそれを見て自閉症について理解するという形になりました。

今年「ONLINE 2023・みんなたいせつこせい とくせい たようせい」のテーマで四月二日(日)から動画配信が行われました。動画のコンテンツは三部からなっていました。

「当事者メッセージ」全国各地の発達障害者及び支援者の八人のメッセージ発表がありました。東海地区では豊橋市の花鳥愛弥さんが「安心して絵を描くことの楽しさ」のんほいパークで見つけた幸せ」というテーマで出演されていました。

彼女が聴覚過敏で人混みに行けなかったのですが、豊橋総合公園の「のんほいパーク」が休園日に特別に入園を許可してくれて、家族だけで入園し、ペリカンの子を介抱して描いていました。その他に公務員試験に合格して川崎市役所に採用されている明石徹之さんの「意思と希望を貫いて生きる」地域で暮らし働いて、自分らしく生きる」というメッセージが発表され、最後に「僕は結婚したいと思っています。子供の名前も決めていきます。」という話が印象に残りました。

歌は、セサミストリートの仲間と、NHKの子ども番組で活動中のSDGsこどもユニット・ミドリズが歌い、その中に今年度のコンテンツ①「当事者メッセージ」の出演者も登場するミュージックビデオが配信されていました。

「東京タワー」ブルライトアップ・啓発イベント」YouTubeのANNnewsなどでその状況は配信されています。③ 文部科学大臣 メッセージ ④ ことも政策担当大臣 メッセージ

支援と連帯の輪と和

98

朝出勤すると私は各棟を巡回します。朝の挨拶でもあります。その様子を少々記してみました。

まずC棟につくとAさんが私を認めて「カフェオレ」と小声で言います。私は冬なら「あったかいカフェオレ飲みたいね」と応じます。Bさんは額に手のひらを当て「アーツ」と声を発してアピールしてきます。そこで私は手掌を彼の額に当て「手首で脈もって」「熱も脈も大丈夫」と保証します。Cさんとは互いに敬礼でやり取りをして、Dさんには「きのうは照ノ富士が勝ったね」と声を掛けると拍手を返してきます。Dさんは相撲博士です。自閉症でないEさんは「あさって

真つ先に私に「おはようございます」と挨拶します。私も挨拶を返しながら右手の指を一本立てます。一回だけという合図です。そうしないと拘りの挨拶がいつまでもくり返されるのです。Gさんの最近の拘りは、私を認めると腰を床に下ろし両足を伸ばしてズボン

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

利用者の健康問題

47

あさけ診療所所長 小西真行

そこに触れて「だいじょうぶ」と言うのを納得します。Iさんは、私を目がけて突進し顔と顔がぶつかりそうになるので支援員が止めてくれます。相手との距離が取れないのです。何を聞いて欲しいのか「ガソリンスタンド」でだけ叫びます。C・D棟は男子棟でした

援員に未だでしよとたしなめられています。Iさんは私を認め、ちよっと片手を挙げるのが挨拶です。自閉症でない少数の利用者は、その人なりのレベルで関わってくれます。他方、ここに記さなかった自閉症の人の多くは言葉もなく、表情も態度も反応

【お詫びして訂正します】檜の里第一〇九号「利用者」と健康問題④「文章に欠落がありました。お詫びして訂正します。【編集部】(文章・部分が追加)

その時お母さんには「心の全体を十とすると八までは自閉の世界です。」「たった二がこちらに開いた社会的の部分です。」と説明します。

朝出勤すると私は各棟を巡回します。朝の挨拶でもあります。その様子を少々記してみました。

まずC棟につくとAさんが私を認めて「カフェオレ」と小声で言います。私は冬なら「あったかいカフェオレ飲みたいね」と応じます。Bさんは額に手のひらを当て「アーツ」と声を発してアピールしてきます。そこで私は手掌を彼の額に当て「手首で脈もって」「熱も脈も大丈夫」と保証します。Cさんとは互いに敬礼でやり取りをして、Dさんには「きのうは照ノ富士が勝ったね」と声を掛けると拍手を返してきます。Dさんは相撲博士です。自閉症でないEさんは「あさって

真つ先に私に「おはようございます」と挨拶します。私も挨拶を返しながら右手の指を一本立てます。一回だけという合図です。そうしないと拘りの挨拶がいつまでもくり返されるのです。Gさんの最近の拘りは、私を認めると腰を床に下ろし両足を伸ばしてズボン

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

が、最後は女子のB棟です。皆の中におれず離れて座っているJさんは「先生今日は寒いね、どうして」と言います。朝は寒いくれどだんだん暖かくなるよと返事をします。Jさんも自閉症ではありません。Kさんは来た早々の私にすぐ「先生さようなら」と言うので支

メンバー紹介



世話人 佐々木 美於



世話人 江谷 真紀



厨房 伊藤 彬江

新しく厨房に入りました。よろしくお願ひします。十二月から利用者様のお世話をさせていただきます。頑張りたいたいと思います。よろしくお願ひします。世話人みんなで協力し、より良いあさけホームにしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

渡辺千鶴さんの還暦お祝い

B棟利用者では五人目として還暦を迎えた渡辺千鶴さん。二〇二三年三月十八日に、B棟利用者・職員全員で、千鶴さんの「還暦のお祝い」を行いました。まだまだコロナ禍ということもあり、B棟内での祝いとなりましたが、久しぶりのイベントだったため、事前にお知らせした「還暦祝いのポスターを見て、千鶴さんはもちろんのこと、他の利用者さんもとて嬉しそうにしていました。前日から会場となる食堂に飾り付けをしてお祝いの雰囲気を作り、当日メッセージボードに貼り付けるお祝いカードにひとりひとり心が込められて書いて、準備完了！お祝いの当日は、利用者も職員もいつもより少しお洒落をして、千鶴さんは赤いちゃんちゃんこを着て、お祝いモード一色になっていました。



みななが何よりも盛り上がったのは、お祝いの紅白饅頭でした!! 千鶴さんも普段の食事の時より大きな口を開けて、とても嬉しそうに食べていました。【還暦】とは六十歳で十干十二支が一巡りして、もとの暦に還ることに由来しています。もう一度生まれ変わって出直す年なので、千鶴さんにはこれから第一の人生を元気に穏やかに過ごしてほしいと思ひています。(支援員 飯田真好)

全日本自閉症支援者協会 研修大会をWeb視聴して

第三十五回全日本自閉症支援者協会研修大会が『全自者協の目指す人材育成』を大会趣旨として一月二十八日にWebで開催され、YouTube liveで配信されていた視聴しました。

プログラムは、松上利男全自者協会長の挨拶で始まり、厚生労働省発達障害施策調整官山根和史氏による行政説明『発達障害者支援施策について』続いて基調講演『自閉症支援と人材育成について』を社会福祉法人萌葱の理事長五十嵐康郎氏からありました。

研究事業報告『強度行動障害支援に関する中核的な人材の養成に関する全自者協三年間の研究事業報告』

今回の研修大会は、松上利男全自者協会長の挨拶で始まり、厚生労働省発達障害施策調整官山根和史氏による行政説明『発達障害者支援施策について』続いて基調講演『自閉症支援と人材育成について』を社会福祉法人萌葱の理事長五十嵐康郎氏からありました。

熱気、臨場感にも欠けた反面、何回も繰り返し視聴でき、理解が深まる面もあったと思います。

五十嵐康郎氏の『人材育成には、支援の質の向上と虐待の根絶・権利擁護するためには、人間の価値観に対する信念、療育や支援に経験と研鑽を重ねて、支援の質の向上を目指して真摯に向きあう情熱と愛情、専門性を備えた研修が求められている』との言葉が心に残りました。

人材育成とは、座学による知識の習得も大切ではあるが、現場実務でのスキル向上が、適切な個々の支援に繋げる人を育てるのには、松上会長の「地域の中で豊かに尊厳をもって自主的に暮らすためにも、社会的な

課題である」と締め括られました。全自者協の目指す人材育成について少し理解を深めることが出来ました。

(保護者 市川 潮)

法人会計報告についてのお知らせ

令和五年六月十七日に開催の定時評議員会において二〇二二(令和四)年度事業報告並びに決算報告が承認されましたので、ここに報告いたします。報告書は、あさけ学園事務所でご覧いただけますので、ご希望の方はお申し出ください。

あさけ学園

このコーナーは、インタビュー形式ですが、今回は前ワークセンターひのき施設長 西野 公さんに投稿いただきました。【編集部】



前ワークセンターひのき施設長 西野 公さん

初めてあさけ学園を訪れたのは二十三歳の時でした。二人の自閉症の少年と佐々本先生と一緒に、当時、宿泊施設があった作業棟に泊めていただきました。二人の少年の支援について近藤園長に心理検査をしていただいていた。ドバイスをお願いすることが目的でした。一人の少年は物を真

うことを教えてもらいました。ヒントにして支援していくと、食事の配膳が上手に

きるようになりました。

それから三年後、私はあさけ学園の職員になり、三十三年の間、お世話になりました。

いろいろな経験から、たくさんのお話を学びました。自閉症療育だけでなく「人生を考える」ということも教えていただきました。

昨年度末に退職しましたが、地域の方々、利用者、保護者、職員の皆様に本当に感謝しています。そして、これからもあさけ学園の利用者の方々の幸せを願っています。

第十四回

三重県自閉症協会作品展

世界自閉症啓発デーの一環として、二〇二三年三月三十日(四月二日)にかけて三重県自閉症協会主催の作品展が津市で行なわれました。

前回の「檜の里」一〇九号「機関紙」に出品を見送った残念なお知らせを掲載しましたが、この自閉症協会の作品展も創作・活動グループの作品を発表する機会の一つになっています。

この言葉を合言葉にして、途中で止まっていた作品にラストスパイトで取り組み、仕上げの貼り付けも「職員」「どう? どう?」「これでいいかな?」「(利用者)『ええな』『素敵』などとやりとりしながら完成させました。

今回出展した作品は、「四季の書」と「四季の置き飾り」の二点。

「四季の書」は、春夏秋冬それぞれの季節に合った

言葉(単語)をマープリングした紙や絵具で染めた紙に筆と墨で書いたものです。今までも千支の書と題して新年の干支を書いていたので、今回も慣れた手付きで個性溢れた味のある書を書き上げました。それらを寄せ書き風に貼り付けるとスケールの大きい作品が出来上がり、「春」「夏」「秋」「冬」と四枚並べて飾ると、それはそれは圧巻の一言。

「四季の置き飾り」は、「春」はプリンカップで作ったイースター、「夏」は牛乳パックで作ったひまわり、「秋」は折り紙やクラフト紙で作ったフルーツバスケット、「冬」はどんぐりや小枝を色付けたクリスマスツリーと、四季の書とは対照的にほっこりする作品となりました。

展示された作品を見て、「すごい!!」「あさけが一番!!」「いい感じ!!」とみんなでお話を楽しんでくれました。

創作・活動グループが出来た当初から参加している人生の大先輩の二人が、車窓から桜並木を堪能しつつ、自分たちの作品や他の方の作品を鑑賞して、久しぶりの外出を楽しんでくれました。

(支援員 松井ひとみ)



社会福祉法人檜の里 後援会の書面審議 結果について

令和五年度社会福祉法人檜の里後援会の総会に代わる「書面審議」結果は過半数以上のご賛同により承認いただきましたのでご報告致します。

(後援会役員)

編集後記

鈴鹿山脈の山々は青葉の美しい季節になりました。保護者会、後援会の総会は四年連続の中止となりました。保護者間の情報共有や意見交換ができず残念な気持ちです。来年こそは、顔を合わせてお話しできますようにと祈念します。

89

メンバー紹介

【あさけ学園 厨房・洗濯担当】

今回はあさけ学園で利用者を楽しみな食事を提供している厨房・洗濯担当を紹介します。【編集部】



- ▼上段左より
鈴木 京子
鈴木 千恵
佐藤 広美
伊藤 彬江
- ▼中段左より
清水 美姫
伊藤 明美
太田 好美
- ▼下段左より
小久保 智子
小森 英子
小野 悦代

今年度より機関紙「檜の里」は年三回の発行から年二回に変更されます。編集委員は、理事長山田勉、施設長近藤裕彦、支援員池田健一郎、保護者市川潮、渡邊昭二、米村ユカリ、伊藤貴宮子です。